

条件を付けない休業補償

「父である神の御前できよく汚れのない宗教とは、孤児ややもめたちが困っているときに世話をし、この世の汚れに染まらないように自分を守ることです。」

(新約聖書ヤコブの手紙1：27)

日本の現代労働歴史はピラミッドの頂点を守るために、最底辺の労働者を犠牲にする歴史であります。彼らは好景気の恩恵が一番最後のおこぼれだけで、反対に不景気と時は一番最初に擦り切れ草履のごとく辞めさせられます。コロナの休業補償にしても、国に納税義務を果たしている人だけであり、その日暮らしで、納税をしようものなら、今日のパンも食べられず、餓死してしまう最底辺の方々の休業補償でなく、国に納税義務を果たす国に忠誠を尽くす方々の為であります。補償が最も必要な人が受けられないというのが実情です。本来、救済は持つとも必要な人から最優先するのが、セオリーです。これは宗教にも言えることです。善行と功德を積むとご利益を受けるのです。しかし、藁をもつかみたい。そうしなければ死んでしまうと言う方々に手を差し伸べるのが本当の宗教です。イエス・キリストこそ、罪に悩み、絶望する者に何も条件を付けず、十字架に付けられておりながら、その上か私たちを罪から救いの宣言をしてくださった方です。